

# 天拝山

Mt. Tempaizan  
257.4m

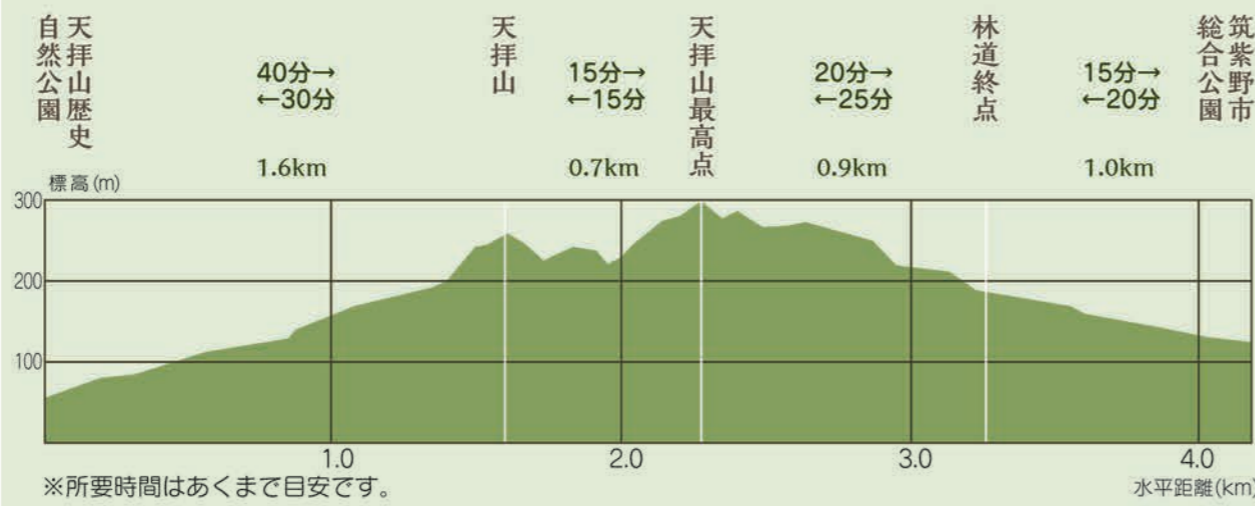


ホオノキ

照葉樹林の中をゆるやかに登る九州自然歩道

天拝山は主にブナ科のカシヤシイ、クスノキ科のタブノキなどのほか、ヤブツバキなど冬でも緑の葉を茂らせる常緑広葉樹(照葉樹)に覆われています。天拝山の照葉樹林は伐採跡に再生した二次林ですが、自然に近い姿をしており、標高が低い割に豊かな自然が残っています。照葉樹林の中にもコナラやハゼノキ、シデなどの落葉樹も点在しており、中でもひときわ大きな葉を付けるホオノキが多いことも天拝山の特徴です。

天拝山から九州自然歩道は天拝湖へ向かいます。照葉樹二次林のほか、スギやヒノキの人工林、竹林の中を通り、天拝山の照葉樹林との違いが観察できます。また、天拝湖へ下る沢沿いの林道では、森林が切り開かれた(かく乱)後にいち早く生育する「先駆種」と呼ばれる樹木や湿気の多い所を好む植物、明るい所を好む草本など植物の種類も多く、天拝山とは全く異なる植生を観察することができます。



**1**天拝山歴史自然公園には万葉植物園があり、万葉集に詠まれた植物を中心に多くの植物を観察できる。

**2**九州最古の寺と言われる武蔵寺境内には「長者の藤」と呼ばれる大藤があり一見の価値あり。付近には県指定天然記念物の「武蔵のイヌマキ群」や、御自作天満宮にはこの標高には珍しいシオジの大木も見られる。



▲御自作天満宮のシオジの大木と長者の藤

**3**この谷付近には特にホオノキが多い。

**4**天拝山は低山の割に野鳥の種類も豊富。四季を通じてコゲラ、イカル、ヤマガラなどが見られ、夏鳥ではアオバズク、キビタキ、オオルリ、ホトトギス、ヨタカ、アオバトなど、冬鳥ではツグミ、ウソ、ルリビタキなども観察することができる。山麓の水辺にはサギ類やカモ類も多く見られる。

**5**照葉樹二次林の中を登る。所々にコナラなどの落葉樹も混じる。山頂が近くなるとタブノキやシロダモなどのクスノキ科の樹木が増える。樹皮がまだら模様のカゴノキを探してみよう。



▲コナラ(左)と紅葉したハゼノキ(右)

**6**天拝山山頂は眺めが良い。太宰府、筑紫野市街地の奥に宝満山や四王寺山を望むことができる。また、山頂付近ではツワブキやマサキ、トベラなど、通常海岸付近に生える植物を観察することができる。



▲天拝山山頂より宝満山方面の眺め

**7**照葉樹二次林の中にイヌシデやアカシデなどの落葉樹も点在する。



▲特徴的な樹皮のイヌシデ

**8**スギやヒノキの人工林の中を通る。間伐など手入れがされた人工林は下層植生も多い。アオキやイヌビワなどが多く見られる。



イヌビワの実 イチジクを小さくした形の実は生食可。▲

**9**モウソウチクが茂る竹林の間を抜ける。



竹林の中の道▶

**10**沢沿いの林道に行く。周囲は主にスギの人工林だが、開けた林道沿いは植物の種類が豊富。アカメガシワやヌルデ、クマノミズキなどの先駆種のほか、シダ類やハナイカタなど湿ったところを好む植物も観察できる。



▲葉の上に花が咲くアカメガシワの赤い新芽▲ ▲ハナイカタ



▲兎ヶ原林道沿いの道



**アラカシ** ◇ブナ科コナラ属  
◇常緑広葉樹 高木性  
カシの仲間の実は通称「ドングリ」と呼ばれます。アラカシはドングリをつけるカシの仲間の中でも県内で最も普通に見られる樹種で、葉の上半分に鋸歯(ギザギザ)があるのが特徴です。



**ツブラジイ(コジイ)** ◇ブナ科シイ属  
◇常緑広葉樹 高木性  
照葉樹林を代表する樹種で、葉の裏に特徴的な金属光沢があります。シイの仲間には実の大きなスタジイもありますが、天拝山では実が丸くて小型のツブラジイ(コジイ)が主体です。実は生食可です。



**ヤブニッケイ** ◇クスノキ科クスノキ属  
◇常緑広葉樹 高木性  
葉はシロダモに良く似ていますが、葉の付き方が対生に近い付き方をします。和名は藪に生える肉桂の意味で、葉をちぎって嗅ぐとニッキに似た香りがします。葉には虫こぶができることがあります。



**カクレミノ** ◇ウコギ科カクレミノ属  
◇常緑広葉樹 小高木性  
若い葉は3~5つに切れ込みが入りますが、老木になるにつれ葉の切れ込みがなくなります。和名は切れ込みのある葉を「隠れ蓑」に見立てたことに由来するそうです。花や実は同科のヤツデと似ています。



**ナガサキアゲハ** ◇チョウ目アゲハチョウ科  
◇昆虫類 前翅長 60~80mm  
日本産の蝶の中では最大級の種類です。南方系の蝶で、江戸時代には九州以南にしか生息していませんでしたが、近年では関東地方でも見られるようになり、温暖化の指標種として注目されています。

メモ欄(観察日時などを記録しましょう)

観察した生き物は写真右上の口にチェックを入れよう。



**クスノキ** ◇クスノキ科クスノキ属  
◇常緑広葉樹 高木性  
葉の主脈が3つに分かれる三行脈の付け根にダニ室と言うふくらみがあります。樟脳を含むため防虫剤として、また材も有用材として利用されてきました。長寿の樹であり各地に大木が残っています。



**カゴノキ** ◇クスノキ科ハマビワ属  
◇常緑広葉樹 高木性  
成長するにつれて樹皮が剥がれ、その模様が小鹿の模様になることから「カゴノキ(鹿子の木)」と呼ばれるようになったようです。葉はタブノキに似ており、天拝山山頂周辺に比較的好く見られます。



**シロバイ** ◇ハイノキ科ハイノキ属  
◇常緑広葉樹 小高木性  
天拝山の照葉樹林内で比較的好く目にすることが出来ます。葉は薄い皮質で光沢があり、縁が波打っています。ハイノキ科独特の白い花が咲き、似た仲間にハイノキのほか「クロバイ」もあります。



**サワガニ** ◇エビ目サワガニ科  
◇甲殻類 甲幅 20~30mm  
川の上流~中流域にかけて生息し、水が綺麗な川に多いため、綺麗な水の指標生物となっています。体は黒褐色、脚は朱色のものが多いですが、体色は地域によって異なり、色には個体差があります。

**九州自然歩道とは...**

九州自然歩道は、愛称“やまびこさん”で親しまれており、九州を一周する総延長約2,900kmの長距離自然歩道です。自らの足で歩くことを通じて、四季折々の豊かな自然や歴史・文化とふれあい、心身ともにリフレッシュし、自然保護に対する理解を深めることを目的として整備されています。

福岡県内コースは、北九州市の皿倉山から平尾台を通り、南下して英彦山に至ります。英彦山からコースは東西に分かれ、東はツクシヤクナゲの群生地である犬ヶ岳などを通り、大平山を経て大分県へ続いています。西はツゲの原生林がある古処山、1,300年の悠久の歴史を秘めた太宰府などを通り、基山を経て佐賀県へ通じる総延長261kmの道です。

福岡県内コースマップ  
<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/kyushusizenhodo-map.html>

**みんなで守ろう 生物多様性**

自然を愛する気持ち、守ろうとする気持ちは、身近な自然を知ること、ふれ合うことから始まります。希少な自然だけが守るべき自然ではありません。身近な自然も生物多様性の一部なのです。地図を片手に身近な自然にふれてみて下さい。

福岡県 環境部 自然環境課  
TEL :092-643-3369 FAX:092-643-3357

平成27年3月発行



**タブノキ** ◇クスノキ科タブノキ属  
◇常緑広葉樹 高木性  
照葉樹林を代表するクスノキ科の樹種で、大きく丸い芽や、樹皮の皮目が特徴的です。葉の形は個体差が大きく、タブノキの仲間とタブノキよりも葉の細長いホソタブも見られます。



**ホオノキ** ◇モクレン科モクレン属  
◇落葉広葉樹 高木性  
天拝山には谷筋を中心に多く自生しています。大きな葉が特徴的で、見上げるとすぐにホオノキと分かります。高木のため花はなかなか観察できませんが、初夏に白い大きな花を咲かせます。



**タチツボスミレ** ◇スミレ科スミレ属  
◇多年草  
平地や人家周辺に多いスミレに対し、山野に多いスミレの仲間、明るい登山道沿いや林縁などで見られます。丸い葉と立ち上がる茎が特徴で、4~5月頃スミレよりも薄い紫色の花を咲かせます。



**アオバズク** ◇フクロウ目フクロウ科  
◇鳥類 夏鳥 全長約 29cm  
身近なフクロウの仲間、頭が丸く黄色い目をしていて、平地や低地の林に生息し、人家近くでも見られ、大木の穴などに営巣します。「ホー、ホー」と2声ずつ鳴きます。



**シロダモ** ◇クスノキ科シロダモ属  
◇常緑広葉樹 高木性  
葉は主脈が3つに分かれる三行脈で輪生し、葉の裏が白いのが特徴です。秋には赤い実が目立ちますが、同じ頃黄色の地味な花を咲かせます。新芽は毛に覆われており黄金色に輝きます。



**ヤブツバキ** ◇ツバキ科ツバキ属  
◇常緑広葉樹 小高木性  
葉の表面にはクチクラ層が発達し光沢があり、まさに「照葉」樹です。地味な花が多い照葉樹林の中でひときわ目立つ真紅の花を咲かせ、早春の照葉樹林を彩ります。実からは「椿油」が採取されます。



**ツブキ** ◇キク科ツブキ属  
◇多年草  
海岸近くの低地から山地の日陰に多く自生しており、葉はフキに良く似ています。秋、天拝山山頂付近に群生したツブキが一斉に黄色い花を咲かせます。写真はツブキの花とアサギマダラです。



**ツグミ** ◇スズメ目ヒタキ科  
◇鳥類 冬鳥 全長約 24cm  
秋に繁殖地のシベリアから大群で日本へ渡ってくる代表的な渡り鳥(冬鳥)です。まず山地で群れた後、平地に移動し分散します。背の羽は褐色で、胸部を中心に白と黒のまだら模様をしています。